

またも 彦根インター横に



巨大ギャンブル施設を計画！

今から 15 年前の 1990 年、名神彦根インター横に場外馬券売場の誘致計画が発覚し、地元住民を中心に多くの市民が参加して約 12 年間に及ぶ粘り強い反対運動を続けました。その結果、遂に、中央競馬会は彦根進出を断念しました。

多くの市民が「ギャンブル施設の建設を阻止できた」と安堵したのも束の間、昨年 6 月の彦根市議会における山田多津子議員の質問によって、同じ場所に競艇と競輪の場外券売場を誘致する計画が発覚しました。しかも、彦根市長は既に「同意」していたのです。

競艇と競輪の券売場を全国で初めて併設

この計画は兵庫県芦屋市の「柵トランスワード」が「原開発委員会」から名神彦根インター北隣の土地 5 ヘクタールを借り上げ、競艇と競輪の場外券売場を建設するというものです。これまでに宮城県大郷に競艇と地方競馬の場外券売場併設の例がありますが、競艇と競輪の場外券売場の併設は例がなく、彦根が全国

初のケースだそうです。

競艇と競輪の売場はそれぞれが二階建て延べ面積 1800 ㎡という巨大なものです。また、利用者数と稼動日数は、競艇が一日 1000 人強で年間 360 日、競輪が一日約 800 人で年間 240 日と見込まれ、年間入場者数は 55 万 2000 人にもなります。

誘致阻止の住民運動がスタートしています

昨年 7 月、近隣の 4 自治会（原町西団地、湖上平地蔵、西沼波東部、原団地）約 700 所帯と老人会、子ども会が「場外舟券・車券売場建設に反対する自治会連絡協議会」を再結成しました。また同 7 月、「場外馬券売場建設に反対する会」の元役員で「場外舟券・車券売場建設

に反対する会」準備会を発足させ、今年 1 月 20 日、会員 60 余名で正式に設立総会をもちました。これまでに両組織は連名で彦根市議会に請願書を 2 回提出した他、彦根市長、滋賀県知事、国土交通省、経済産業省などに要請書を送るなどの反対運動を展開してきました。

「歴史と文化のまち 彦根」が 「ギャンブルのまち 彦根」に！

彦根市の玄関とも言える名神彦根インター横に巨大なギャンブル施設が出現し、毎日 1000 人から 2000 人、年間 55 万人ものギャンブラーが押し寄せれば、これまで長年にわたって築いてきた「歴史と文化のまち」「学園都市」という彦根市のイメージは「ギャンブルのまち」へと変わってしまうでしょう。

湖東湖北の中核都市を標榜してきた彦根市が、「ギャンブル依存症」による家庭崩壊や暴力と犯罪の温床として周辺地域から疎まれる存在へと落ちてしまうのです。

彦根市と周辺自治体の住民生活に重大かつ深刻な犠牲を強いる巨大ギャンブル施設の建設は是が非でも阻止しなくてはなりません。

場外舟券・車券売場建設に反対する会 ニュース NO.01 2005.03.06

「自連協」と連名で

中島市長に公開質問状



「場外舟券・車券売場建設に反対する会」（略称：反対する会）は「場外舟券・車券売場建設に反対する自治会連絡協議会」（略称：自連協）と連名で、2月24日、彦根市長に公開質問状を出しました。これは彦根市長が市議会で曖昧な答弁に終始し市民不在の不透明な態度をとっているため、市長が同意した真意と内容を質すためのものです。内容は ①同意する前に公表しなかった理由 ②開発事業者が滋賀県と協議することに同意したのか、それとも設置そのものに同意したのか ③周辺自治会の同意なしに同意した理由 ④今後は周辺自治会と話し合うのか ⑤ギャンブル施設と福祉施設との併

設に同意した理由 ⑥「市民憲章」に照らしてギャンブル施設は必要か ⑦ギャンブルで彦根市が活性化するという理由 ⑧交通渋滞を予見しながら同意した理由 ⑨これまでの手続きに問題のある開発事業者を信用して同意した理由 ⑩適法かどうかだけでなく常識とモラルをもって対処するのかどうか ⑪舟券売場だけに同意したのか、それとも車券売場および複合施設全体に同意したのか、以上の11質問で、15日以内に返答するように求めています。この事は翌25日の新聞各紙（朝日、毎日、読売、中日、京都、近江同盟、滋賀彦根など）に掲載されました。

彦根市議会3月定例会に



三団体連名で 請願書を提出

「自連協」と「反対する会」は連名で、昨年9月と12月議会に「場外舟券・車券売場設置に反対する請願書」を提出しましたが、いずれも不採択となりました。そこで3月議会には正法寺町自治会が加わり三団体連名で提出しました。この請願団体に自治会組織本体が加わるのは初めてのケースで画期的なことです。今回の紹介議員は獅山向洋、松本忠男、赤井康彦、成宮祐二、山田多津

子の5議員で、前回紹介議員になっていた辻橋正一議員は産業建設常任委員長のため辞退されました。この請願書は、彦根市民の生活環境を悪化させ、彦根市の健全な発展を阻害する場外舟券、車券売場の設置に対し市議会が反対するよう請願するものです。請願書は3月16日の産業建設常任委員会で審査した後、3月22日の本会議で採決される予定です。

正法寺町自治会、旭森学区連合自治会 も



「迷惑な計画だ」と強く反対！

正法寺町自治会員でつくる「生活環境をまもる会」は昨年12月1日、彦根市長に場外舟券・車券売場計画に反対する要望書を提出しました。要望書は「この種の施設設置を市が許可すれば、彦根市をはじめ近隣市町村までの悪影響は計り知れないと考えています。ギャンブル施設のある町として質的に低下します。慢性的な交通渋滞、ギャンブル依存症による家庭崩壊、教育環境の悪化、さらに青少年育成にまで及び、子どもを持つ親たちは大変憂慮しております。地域の活性化どころか益々経済も冷え込むことでしょう。市長の初選挙の公約を私たちは忘れておりません。・・・『公営ギャンブル建設反対』と

謳われたことを思い出します。初心にかえって、あの素晴らしい演説をもう一度聞かせて頂きたいものです。・・・会場への入口は、彦根インター横 一方通行から進入し、正法寺町交差点（国道306号線）を利用する計画のようですが、隣接する住民として迷惑な計画だと強く反対致します。」と訴えています。正法寺町自治会では全戸にビラを配ったり、国道306号線沿いに「場外舟・車券売場反対」の看板を立てる等、活発に運動しています。また、旭森学区連合自治会も1月21日、彦根市長に「原町における車券・舟券場外販売所の誘致反対についての要望書」を提出しました。